静岡県立こども病院

こども病院ひろば

第19号
発行日
令和３年
８月25日

本館リニューアル工事が終了

薬剤室

こんにちは、薬剤室です。この3月に改修工事が完了し、新しく生まれ変わりました。改修に際し、小児専門病院である当院のニーズに答えられるよう、小児特有の処方に対応した栄養輸液を調製する無菌室と、市販されていない薬品を調製する製剤室を充実させました。また、当院では細胞毒性のある医薬品の散剤調剤が多く、専用の散剤自動分包機を新規に購入しました。

新たな環境を得て私たち薬剤室一同は、引き続き当院の理念のもと、医療チームの一員として、安全かつ適正な薬物療法を支援してまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

薬剤室長代行　井原摂子

検査室

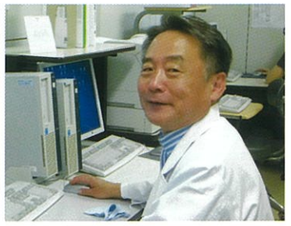
昭和52（1977）年開院以来使用してきた1 階の生理検査室、2 階の検体検査室の1 年に及ぶ改修工事が今年の3 月に終了しました。検査室に仮設壁を作成し、業務を行いながら工事を行うと言う、例を見ない方法で実施されました。空調、給湯、給水、排水設備の大きな改修を行いました。検査室レイアウトについても今後20年使えることを念頭に計画しました。

検体検査室は、検査材料と職員の動線を考慮し、働きやすく、検査機器の変更時にも対応できる設計としました。生理検査室は、脳波室を増設しました。検査件数の増加に対応できると伴に余裕を持った検査が可能になりました。内装は、小児病院らしいものとし、明るい待合、少しでも患者様がリラックスして検査を受けられる環境になるよう配慮しました。　検査技師長　大石和伸

安心して治療を受けられる「小児がん拠点病院」を目指して

ー小児・ＡＹＡ世代がん患者のための環境整備ー

小児がんセンター長、血液腫瘍科科長
渡邉健一郎



当院は全国に15ある小児がん拠点病院の1つとして、高度な診療と、患者さん、ご家族に対する手厚い支援を職員一丸となって行っています。今年度に入り、拠点病院事業として、小児がんを診療するメインの病棟である北5階病棟の改修を行うことができました。今回の改修では、感染症のリスクを低減するためのクリーンユニット化と思春期患者に適した療養環境整備を行いました。

環境整備

北５病棟

小児がんの治療では、抗がん剤投与、造血細胞移植が行われ、かなり強い免疫抑制状態となります。そのため、患者さんは感染症にかかりやすく、また重症化しやすくなるため、感染症の予防・治療が重要で、できるだけクリーンな環境で治療を受けることが望まれます。今回の改修では、無菌室の並びにあった個室4部屋すべてに空気を清浄にするフィルターを設置し、クリーン度の高い部屋としました。さらに、その前の廊下のスペースもクリーン度を上げて、クリーンエリアとしました。これにより、感染リスクが低減され、より安全な治療の提供が可能となります。

また、小児がん治療は、長期の入院を要する場合が多く、生活も制限されるため、体力が落ちやすいです。今回の改修で、免疫抑制のため個室収容が必要な患者さんも、クリーンエリアに出て、身体を動かしたり、リハビリテーションを行ったりすることができるようになり、運動発達の促進、筋力の維持によって、治療終了後スムーズに日常生活に復帰できるようになります。

長期に渡り入院する患者さんは、学習の機会も減少しがちです。そのため、インターネットのアクセスポイントを設置し、オンラインによる学習環境も整えました。これにより、治療と学習を両立することができ、円滑な復学につながります。このような環境であれば、ストレスや孤立感を軽減することもできると期待しています。

一般病室

AYA世代

AYAラウンジ

当院は小児病院のため従来年少児向けに環境が整備されてきましたが、実際には、中学生以上の思春期の患者さんもおられます。小児がん拠点病院には、AYA世代（Adolescent and Young Adult、思春期若年成人）患者への対応も求められています。この年代の患者さんは、乳幼児、学童とは違った身体的、精神的特徴を持ち、進学や就職といった様々なライフイベントを経験するため、それに合わせた支援が必要とされています。

今回の病棟改修では、AYA世代患者さん用の共用スペース「AYAラウンジ」を新設しました。ここもオンライン学習環境を整えており、気兼ねなくインターネットを介した遠隔授業を受けることができますし、学習机があり自習に適した環境となっています。また、同年代患者との交流を通じて孤立感、不安感を軽減し社会性を育み、AYAラウンジ使用の目的・方法を患者自身が考え、決めることで自立性および自律性を涵養するといったねらいもあります。この年代の患者さんには、時には自分と向き合う時間も必要で、病室を離れて自分だけでいられるパーソナルな空間としても使用できます。このスペースを、思春期以降の患者さんに有効に活用していただき退院後の生活につながるようにしていきたいと考えています。

以前に比べ、小児がんの治療成績は飛躍的に向上し、多くの疾患で治癒が期待できる時代となりました。しかし、治療を受けるのは大きな負担ですし、治療が終わった後はフォローアップを続けながら日常生活に復帰し、様々なライフイベントを経験いくこととなります。患者さん一人ひとりが病気を克服しながら、その人らしく歩んでいけるように、スタッフ一同これからも努めて参ります。

小児医療に対する理解が今まで以上に進めば幸いに存じます。

リニアック

気道狭窄の外科治療

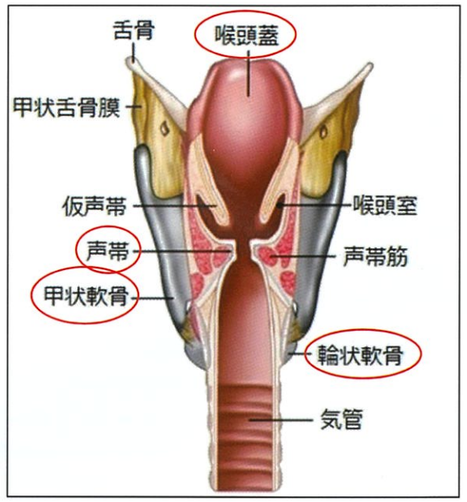
呼吸器外科科長　　福本　弘二

気道は鼻腔・口腔から肺に至るまでの空気の通り路です。この通路のどこかに狭い部分があると、呼吸がしにくくなります。こうした気道狭窄は難治性で窒息のリスクが高いことも多い疾患です。当院は、気道狭窄に対するほぼ全ての治療法に対応しており、鼻腔・口腔・咽頭については耳鼻咽喉科と形成外科が担当し、喉頭・気管・気管支を小児外科が担当しています。

喉頭・気管

喉ぼとけの骨は甲状軟骨と言い、この中に喉頭蓋・披裂部・仮声帯など声門上の組織と声門（声帯）が入っています。その下にある太い骨が輪状軟骨で、その内腔が声門下腔です。喉頭蓋から輪状軟骨までを喉頭と言います。喉頭のどこかに狭い部分があるのが喉頭狭窄症で、声門上狭窄・声門狭窄・声門下狭窄に分けられますが、重複している場合も多いです。

輪状軟骨の下に気管が続き、左右の肺に向かって別れた部分から気管支となります。



外科治療

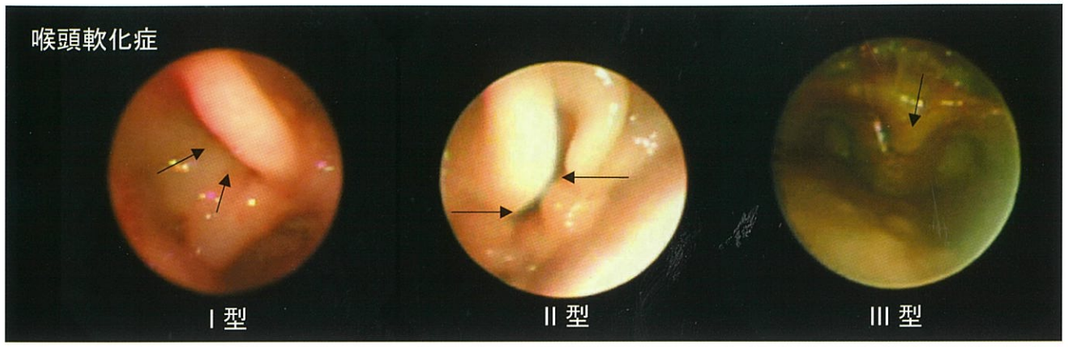
頸部や胸部を切開して行う手術、経口的に挿入した直達鏡を介して行う喉頭顕微鏡下手術、経鼻の軟性ファイバースコープを用いて行う小手術や処置、の3つに分けられます。

手術によって気管切開を回避できる可能性がある場合は、新生児・乳児期でも手術を行います。気管切開を必要とする場合は、離脱するための計画を立て、治療を行っていきます。狭窄が広範囲の場合などは、段階的に治療を行うことも多いです。皮膚を切開して行う手術は、体格が大きい方が有利なため、少なくとも幼稚園年中さんの歳まで待ってから行います。

喉頭顕微鏡下手術

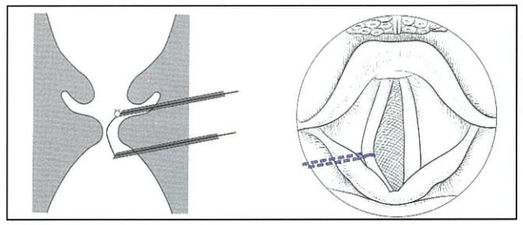
喉頭狭窄症（声門上狭窄）

声門上の組織によって、声帯の上で狭窄を起こしている状態です。重度喉頭軟化症や喉頭のう胞などが代表的な疾患です。基本的に狭窄要因の切除や解除を行います。



喉頭狭窄症（声門狭窄）

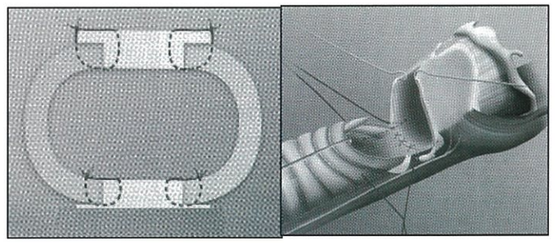
声帯麻痺が代表的な疾患です。他には瘢痕性狭窄などがあります。喉頭顕微鏡補助下の声門開大術や、頸部切開で肋軟骨移植術などを行います。



声門開大術

喉頭狭窄症（声門下狭窄）

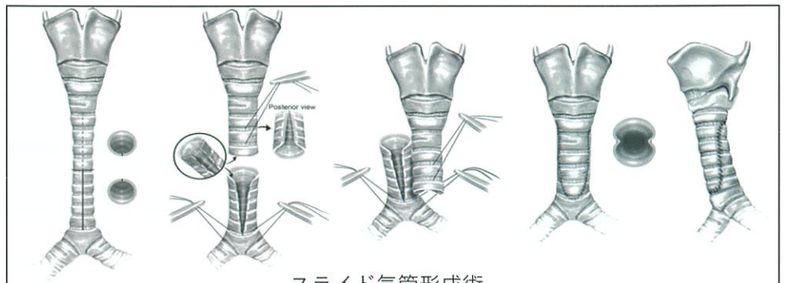
輪状軟骨の肥厚や低形成による狭窄ですが、他の部分の狭窄を重複していることも多いです。肋軟骨移植術や喉頭気管部分切除術を行います。



肋軟骨移植術　　喉頭気管部分切除術

気管狭窄症

気管の一部または全域の狭窄です。ウィルス感染などで気管粘膜が浮腫を起こすことを契機に発見されることが多いです。胸骨正中切開で開胸し、スライド気管形成術を行います。



スライド気管形成術

叙勲あいさつ

皆さん、こんにちは。4年前に院長職を終えましたが、今春、思いがけず瑞宝小綬章を賜りました。こども病院での職責に伴うもので、ひとえに在職中にご支援をいただいた方々のおかげと感謝しております。コロナ禍の中、宮中参内はなく、5月31日に県庁において川勝知事から授与されました。両陛下のご尊顔を仰げなかったことが残念です。賞状に押されている明治以来の玉璽に“大日本国・・”とあり、戦後に“日本国”に変わらなかったのに不思議な思いがしました。

さて、この2年間、少子化が加速する由々しき事態となっています。政府は子どもは社会が育てるものと言いますが、掛け声だけで実効策を講じることができない情けない有様です。

欧米に比べ、我が国はまだまだ子育て後進国だと思います。

こども病院は子育てインフラの重要な役割を担っています。

職員一同その責務をしっかり努める思いですが、今後とも皆様方の一層のご支援をお願いしたく存じます。

名誉院長　瀬戸嗣郎

産科科長あいさつ

静岡県立こども病院産科の河村隆一と申します。前科長の西口富三先生の後任を4月から務めさせていただいております。私は2007年、静岡県立こども病院に周産期センターが開設されるにあたり、 浜松医科大学から赴任いたしました。静岡県立こども病院は、小児医療において、国内でも屈指の高度医療水準を有し、胎児期からの一貫した医療体制を構築することができます。そのため、県内のみならず、全国からの紹介患者も受け入れています。

現在、当院の周産期センターは、MFICU 6床、一般病室16床で運営されており、切迫早産や多胎妊娠、妊娠合併症などのハイリスク妊娠以外にも、さまざまな胎児疾患を持つ妊婦さんが入院しています。こども病院に併設された特性を活かし、胎児診断・胎内治療をはじめとして、母児に対する高度専門医療を提供しています。

産科スタッフ共々、我が国の周産期医療に少しでも貢献できるよう頑張っていきたいと考えております。今後とも宜しくお願い申し上げます。

産科科長　河村　隆一

前号の記載に誤りがありました。

1ページ目	（誤）臼井和正先生	→	（正）臼田和正先生
3ページ目	（誤）新屋光央先生	→	（正）新谷光央先生
4ページ目	（誤）小児集中理療科	→	（正）小児集中治療科

静岡県立こども病院QRコード

編集後記　当院は全国の小児医療に貢献できる素晴らしい「人」、「技術」を多く有しています。紙面づくりを通して再認識しました。皆さまに知って頂けるよう、分かり易い紙面作りに心掛けて参ります。ご意見、ご要望をお待ちしています。

（医療サービス・広報委員会委員長　河村秀樹）

編　集　医療サービス・広報委員会　〒420-8660 静岡市葵区漆山860　TEL:054-247-6251(代表)　FAX:054-247-6259